

市長 浜松市

陸上競技場 国際規格化へ

新野球場の必要性強調

鈴木康友浜松市長は、10日、四ツ池公園陸上競技場(同市中区)の国際規格化について、「大きな大会の誘致が可能になり、本市の強みが発揮できる」と述べた。その上で、同公

園内にある浜松球場の機能を、県が市内に整備を構想する新野球場に移転する必要性を強調した。市議会5月定例会で一般質問に答え

た。市は遠州灘海浜公園篠原地区(西区)の新野球場建設後、浜松球場を撤去し、四ツ池公園内に国際大会開催が可能な第1種陸上競技

場整備の構想を描いている。

国際規格化を疑問視する質疑に対し、鈴木

市長は市総合水泳場トビオ(西区)や浜松アリーナ(東区)での国際大会の実績を挙げた。「施設の充実に加え、大都市の中間に位置し、交通インフラを完備する浜松は地理的

な優位性が大きい」と分析し、積極的な誘致に向けて大規模施設の必要性を訴えた。

新野球場建設については、野球、陸上の競技団体、自治会など対話の機会を設け、市(浜松総局・青島英治)議会特別委員会でも丁寧